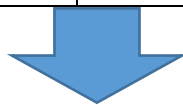


学校教育目標	チャレンジ！四季っ子	〔ミッション〕夢に向かって自己実現できるようにその基盤となる「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の知・徳・体をバランスよく育て、「生きる力」をつける。
		〔ビジョン〕・自他のよさを認め合い、共に高まる学校 ・教師と児童、児童同士の心が通じ合い、明るく活気溢れる学校 ・保護者・地域から信頼され、安心・安全な学校
経営目標に向かうストーリー	これまで「学びの変革パイロット校」として“課題発見・解決学習の過程を取り入れた授業づくり”そして「学力フォローアップ校」として“学習のつまずきを解消する指導方法等の研究”を両輪として取り組んできたことにより、児童の学力や学びに向かう姿勢、教員の授業改善に一定の成果が見られた。これらの取組を継続しつつ、さらに今年度からは“児童が自ら学びたくなる「問い」による授業づくり”をテーマとして取り組み、児童の思考力や表現力、自己有用感等の資質能力の育成を図っていく必要がある。具体的には生活科、総合的な学習の時間等を中心に、児童が深く考え、学ぶ意義を実感するような「問い」から始まる探究的な学習、授業づくりを目指す。あわせて、全ての土台となる“豊かな心”と“健やかな体”の育成を図ると共に、信頼される学校づくりを推進する。	

評価計画				現状値	目標値	第2回中間	第3回最終	達成度	評価															
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標																					
<b>①&lt;確かな学力&gt;</b> ○「主体的対話的で深い学び」の実践 ○「思考力・表現力」「自己有用感」の育成	○基礎・基本の徹底と学習意欲の向上  ◎思考力・表現力の育成  ○学びたくなる問いによる授業づくり	・基礎・基本の問題の繰り返し学習 ・めあて、まとめ、評価の一体化 ・家庭学習についての指導や取組の徹底  ・協働的な学習による学び合いの場の充実 ・主体的な学びを伸ばす学習習慣づくり、ノト指導の充実 ・教師自らの研修	・国語の単元末テスト「読むこと」の定着率平均 ・算数の単元末テスト「思考判断表現」の定着率平均 ・家庭学習がんばろう週間中、目標時間を達成した児童の割合 【小中共通項目】 ・「授業中自分の考えと理由をもつことができる」肯定的評価の児童の割合 ・「分かりやすく工夫して相手につたえることができる」肯定的評価の児童の割合 ・「学びたくなる問いによる授業づくりに取り組んでいる」肯定的評価の教師割合	91%	75%	88%	89%	4																
				(修正)				—		90%	90%	92%	93%	3	83%	80%	83%	85%	4	85%	80%	81%	86%	4
<b>②&lt;豊かな心&gt;</b> ○自他のよさを認め合い、友達と協働しながら、共に高まり合う児童の育成 ○自己有用感の涵養	◎規範、規律、礼儀の徹底  ○自他のよさを認め合う仲間づくり	・四季小三大名人(あいさつ、くつろえ、ろうか右側歩行)の指導と評価の徹底。運営委員会の呼びかけ ・ソーシャルワークの取組  ・読書活動の充実	・「自分から進んであいさつができる」肯定的評価の児童の割合 【小中共通項目】 ・トイレスリッパそろえ集計表 ・「ソーシャルワークが身につけてきた」肯定的評価の児童の割合 ・「自分はクラスの人や友だちの役に立っている」肯定的評価の児童の割合 【小中共通項目】 ・年間55冊以上読んだ児童の割合	94%	95%	88%	91%	2																
				(修正)						91%	90%	94%	95%	4	94%	95%	87%	89%	1	—	80%	91%	85%	4
<b>③&lt;健やかな体&gt;</b> ○基礎体力の向上と基本的な生活習慣の確立	◎基礎体力の向上  ○基本的な生活習慣の定着	・体力テストの分析と体育授業の質の向上  ・アトレティックワークの指導の充実	・春と秋の握力の比較、伸びた児童の割合 ・「運動をするのが楽しい」肯定的評価の児童の割合 ・チャレンジバル3以上の数が4日間以上ある児童の割合	90%	90%	86%	86%	2																
				(修正)						95%	95%	89%	90%	2	91%	90%	89%	87%	2					
<b>④&lt;信頼される学校&gt;</b> ○働き方改革の推進  ○コミュニティ・スクールの推進	◎業務改善を通じた学校組織の活性化の推進 ○地域と共にある学校づくり	・行事、活動の見直し、精選  ・学校運営協議会の充実	・子供と向き合う時間が確保されていると感じる教師の割合 【市共通項目】 ・全指標最終達成度「3」以上	89%	85%	81%	73%	1																
				(修正)						—	—	—	—	—										



第2回(中間)学校運営協議会

結果と課題の分析・改善方法等

<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>算数科の「思考・判断・表現」の結果については、全学年80%を達成できているが、学年、学級によって差がある。今後はFUタイムを計画的に行ったり、学年で指導を統一したりするなどして取り組む。</li> <li>根拠を明らかにして自分の考えをもつことや、分かりやすく説明することができる児童は目標値を達成できている。よって今後はその考えを対話の中で吟味して、よりよいものに深化していく必要がある。そのためには校内の研究授業などで共通理解のもと、進めていく。</li> <li>「本質的な問い」についての教師の肯定的評価は目標値を達成しているが、その評価や検証は個人内でとどまっている。「本質的な問い」が児童のどのような姿としてあらわれたか、この単元の学びが他のどの場面で生かされたか等について校内研で検証し、今後の指導に生かしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶は声が小さく、言われても返さない児童も少なからずいる。高学年や教職員が手本になるような挨拶をしたり、高学年による挨拶運動を取り入れたりしてしっかりと挨拶できるようにする。</li> <li>ソーシャルスキルワークについては、高学年児童の中には苦手意識をもつ児童もいる。ポイントを絞って重点的に取り組んだり、いろいろな意見を肯定的に受け止めたりするなど、やり方を工夫して効果的に活用していく。</li> <li>自己有用感のアンケート結果は91%と高い。教員による肯定的評価をしたり、児童同士の評価を取り入れたりして、自信をもって生活できるようにする。</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>握力の記録が伸びた児童の割合は、目標値に達していない。また、今年度行われた新体力テストの結果においても、本校は多くの種目で全国平均値を下回っている。今後は、体育の授業の始めに上り棒を含めたサーキットトレーニングを行うことやグーパー体操を含めた四季っ子体操など握力及び基礎体力の向上に向けて取り組む。</li> <li>運動が楽しいと思える児童の割合が増えるように保健体育委員会でおすすめの運動や遊びを紹介したり外遊びの日を週に一回設定したりする。また、体育の授業において、個人の能力に応じた場の設定や目標を設定することで成功体験を多くさせたり、教師や児童同士が肯定的な声かけをしたりするなど児童が運動による達成感をもてるように工夫する。</li> <li>アウトメディアは、概ね定着しているが、目標をもって児童一人一人が取り組めるように学級での指導を行う。</li> </ul>	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供と向き合う時間の確保については目標値に届いていないため、引き続き行事活動の見直し、精選や効率的な業務遂行を行っていく。</li> <li>コミュニティスクールについては第2回学校運営協議会の中で、市民センターにおける学校連携の具体を発表してもらう等従来とは違う内容を工夫した。</li> </ul>
--	---	---	---

全体

- 課題を抱えた児童については引き続き保護者や関係機関等と計画的な連携を図る必要がある。
- 児童の自己有用感を高めるために、学校内だけでなく、保護者や地域の方等からの評価を効果的に活用していくことが重要。

第3回(最終)学校運営協議会

結果と課題の分析・改善方法等

<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の繰り返し練習を取り入れたFUタイムと家庭学習の定着により、国語科、算数科の「思考判断表現」の達成率は目標値を超え、概ね達成できた。しかし、達成率80%以下の児童は固定化している。個別の学習計画を立てて学力の定着を図るなど、焦点化して今後は取り組む。</li> <li>ICTを活用して協働的な学びの場を設定したり、ツール等を使い必然的に内容の構成を考えたりすることができるような工夫を行うことで、自分の考えと理由をもち、分かりやすく説明するために工夫している児童の割合は高くなっている。今後もICTの研修を進めるとともに、児童一人一人の表現の質をルーブリック等で自己評価できるようにするなどして、表現力を身に付けさせる。ノート指導の充実については、共有できなかったので、校内研修などで成果や課題を出し合う場を作る。</li> <li>「学びたくなる問い」を設定していくことで、主体的な学びを伸ばすことに取り組んだ。今年度は、校内研修等で本質的な問いの立て方や授業展開、児童が主体的に取り組むための手立てについて情報共有し、児童が深く思考して表現する授業づくりについて学ぶことができた。今後は、めざす児童の姿の評価等について研修を重ねていく。</li> </ul>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶については第2回中間よりは改善したものの目標値には達していない。特に児童だけで歩いているときは挨拶ができていないと感じる。スリッパそろえについては95%で目標値を超え、概ね達成することができた。三大名人については以前より形骸化してきているため、来年度に向けて取組を絞り、全校で取り組むようにしていく。(挨拶名人にチャレンジなど)</li> <li>ソーシャルスキルワークについては89%で目標値に達していない。ワークの内容を頭では理解していても行動が伴っていない児童もいる。ワークの内容を掲示し、常に意識するなど活用法を工夫する必要がある。ワークの活用法や時間配分や指導方法の工夫など教職員で研修を行っていくことが必要である。</li> <li>自己有用感については、第2回より6%下回った。アセスの生活満足度が低い児童や不登校傾向の児童の自己有用感が低い。学級づくりを充実させていく必要がある。また、コロナ禍での行事の縮小や縦割り掃除の中止なども影響していると思われるので、できる活動の中で満足感を得られるようにしていく。</li> <li>「図書室プロジェクト」の効果もあり、読書を楽しむ児童が増えた(本を読むのが好きの肯定的評価は86.7%)。55冊を達成した児童は92%だが、年度末には目標値を達成する予定。同じ児童が毎年達成できていないため、担任が本を紹介したり一緒に借りたりするなど、読むきっかけを提供していく。</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストの結果からも明らかに、現状、本校児童の体力は低い。基礎体力の向上は、すぐに効果が出るものではないので、長期的に体力向上の運動を取り入れていく。(グーパー体操、なわとび、5分間走、サーキットとレーニングなど)特に握力については、体育の時間にグーパー体操や手押し車を取り入れたり、タオルやロープで簡単綱引きゲームをしたりするなど、握力を鍛える運動を1つは取り入れるようにする。また、家庭でも親子で指相撲やグーパー体操など握力を鍛えながら楽しく過ごせる活動を紹介し、家庭学習頑張り週間に取組んでもらうように呼びかける。</li> <li>外遊びは変わらず盛んである。雨の日にもなわとびが出来るように、屋根の下になわとび台を設置するなど、環境整備を進めて行く。また、体育委員会による外遊びの紹介を続けていく。</li> <li>アウトメディアは、概ね定着している。達成感を積み重ねることで、自主的に課題を設定して進めて行けるようにしていきたい。</li> </ul>	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの感染状況により、学校行事に見通しがもちにくい状況であったが、規模を縮小して運動会や学習発表会などの代替的な活動を行った。また、会議等を精選したり、見直しをもって行事を調整したりする中で放課後の時間確保に努めた。しかし、教師の肯定的な回答が7%下がっている。一部の教員に負担が集中しないように業務の内容を検討したり、ICT機器の効果的な利用や教職員による業務改善の取組をさらに見直ししたりして、業務改善を行う必要がある。</li> <li>コミュニティ・スクールでは今年度、市民センターと学校との連携協働について主に取り上げた。具体的には長期休業中の自主学習会(中学生も学習リーダーとして参加)や4・5年生による防災学習への指導助言や交流等の事例について情報発信・情報共有を行った。</li> </ul>
---	---	--	---

全体

- 「確かな学力」「豊かな心」の評価指標に掲げた項目についてはおおむね目標値をクリアすることができた。引き続き数値に表れない児童の実態（体調面や精神面、生活リズム等）について良い面、課題面含めて丁寧に見ていく必要がある。
- 「健やかな体」については上記に掲げた具体的な取組を来年度当初から全校で取り組んでいく。
- 業務改善については確実に進んでいるが、その成果を職員が実感できるよう。引き続き進めていく必要がある。
- 不登校傾向の児童に変化が見られる。家庭的に課題を抱えている児童について関係機関とケース会議や教育相談を行い、学校全体で共有して取り組むことができたので、今後も継続する。



学校関係者評価を受けての次年度の方針・方策

①	②	③	④
全体			

第3回(最終)学校運営協議会を受けて最終報告